

道徳通信

野々市市立野々市中学校 令和2年 12月23日(水) NO. 7



例年より早くスタートした2学期も、残すところあと1日となりました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、運動会や合唱コンクール、校外学習といった行事もこれまで通りとはいかない中、皆さんの創意工夫と情熱のおかげで、なんとか終わることができました。また、行事だけでなく、勉強や部活動にも一生懸命取り組んだことと思います。ぜひ良かったところ、更にごんばれそうなところなど、2学期の自分自身を振り返ってみてください。3学期につなげていきましょう。



～「人権週間」に関わって～

我が国では毎年12月4日～10日の1週間を人権週間と定め、全国的に啓発活動を展開し、人権尊重の普及高揚を呼びかけています。学校でも給食時間中に放送による呼びかけを行ないました。そして、道徳の教科書にも人権に関わる教材がたくさん掲載されています。

道徳の時間に学習する教材の中で人権に関連するものをいくつかご紹介します！

【1年生】

- ・ いじめのない世界へ① 「いじめに当たるのはどれだろう」
- ・ いじめのない世界へ② 「傍観者でいいのか」
- ・ 「笑顔のために」(「全国中学生人権作文コンテスト」より)

【2年生】

- ・ いじめのない世界へ① 「私のせいじゃない」
- ・ いじめのない世界へ② 「あの子のランドセル」
- ・ 正義を追い求めて 「渡良瀬川の鉈毒」
- ・ 垣根を越えて 「六千人の命のビザ」

【3年生】

- ・ いじめのない世界へ① 「無実の罪」
- ・ いじめのない世界へ② 「ある日の午後から」
- ・ 差別や偏見をなくすために 「伝えたいことがある」



「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。」

—「世界人権宣言」より—

「すべての国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。」

—「日本国憲法」より—

学校生活の中でも折りに触れて、考えていきましょう。

明日はクリスマスイブ!そして、明後日はクリスマス!
クリスマスにちなんだ話を1つご紹介します。ぜひご家庭での話題にしてみてください*

「賢者の贈り物」

O. ヘンリーの作品より

すぐれた短編小説を数多く世に出した米国の小説家O・ヘンリー。彼の作品は日本でも翻訳され、多くの人に読まれ、愛されています。

日本でよく知られた作品の一つに「賢者の贈り物」という短編があります。主人公は貧しいが幸せに暮らす若い夫婦。この二人こそ賢者だと、作者O・ヘンリーが最後につづるこの作品は、どんなお話なのでしょう。

*

月八ドルの安いアパートに暮らす、ジムとデラという若い夫婦がいました。クリスマス前の日、妻のデラは財布の中のお金を何度も数えますが、一ドルと八十七セントしかありません。愛するジムに素敵なクリスマスプレゼントを買うためのお金がたったこれだけしかない、ソファーに倒れ込んで悲嘆に暮れます。彼女はジムのために、彼にふさわしい、素敵で、珍しくて、そして立派な何かをプレゼントしたいと考えていました。しかし、手持ちのお金では、どうにもなりません。

ふと立ち上がり、デラは部屋の窓の

そばにある細長い鏡に自分の姿を映しました。

するとそのとき、自分たち夫婦が二つのすばらしいものをもっていることに気付きます。一つはジムの家に代々受け継がれてきた金の時計。そしてもう一つは、デラの長い髪でした。その髪は、まるで、どこかの国の王女様が身に着ける装飾品のような、いえ、それ以上にすばらしく美しい髪でした。

デラは鏡の前で、その髪をまとめ上げると、一瞬ためらい、涙を浮かべました。しかし茶色のジャケットと帽子をかぶって、ドアを開け、通りへ降りしました。

そして「マダム・ソフロニー髪用品」という看板がかかっている店の前で足を止め、中に入りました。

「私の髪を買ってくださいませんか。」

「帽子を取ってください。」とマダムに言われ、デラが帽子を取ると、褐色の小滝がうねるように落ち、すばらしい長い髪が現れました。

二十ドルでデラの髪は売れました。彼女はそれをお金を持ってジムのプレゼント

を探して店を見て回りました。

そして彼女はついに見つけたのです。それは、ジムの金の時計にぴったりなプラチナのチェーンで、ジムが使うために作られた物のように思われました。二十ドルでそのチェーンを買って、家に戻りました。髪を切ってしまったことを何と言われるかという不安と、そしてジムに素敵なプレゼントを渡すことができる期待とが入り交じる中、夕食の準備をしながら、デラはジムの帰りを待ちます。家に帰ってきたジムは、デラを見て立ちすくみました。しかし、デラには夫の表情が読み取れません。怒りでも驚きでも落胆でも恐怖でも、彼女が想像していたどれも違う表情なのです。

デラはジムに寄り添い、事の次第を語ります。ジムはしばらくぼうっとしていました。デラを抱きしめました。そしてポケットから包みを取り出し、机の上に置きました。それは、デラがずっと欲しがって、けれども高価なのであきらめていた、長い髪のためのとても美しい櫛だったのです。そしてジムはそれを買うために、大切な金の時計を売ってしまったのです。

(出典:「私たちの道徳 中学校」文部科学省)

